

J. W. Rohen, 横地 千仞, E. Lutjen-Drecoll (著)

解剖学カラーアトラス 第6版

松村 譲児

(杏林大学医学部教授・解剖学)

本書は1985年を初版とする解剖学カラーアトラスの第6版である。実に23年もの間、人体解剖学を学ぶ人たちの傍らで人体構造の道案内を果たしてきたことになる。一般には「ローエン・横地」と呼ばれる本書がいかにも多くの学徒に受け入れられてきたかは「医・歯学生の間で単にアトラスといえど本書を指す」ということから知る事ができる。

本書はイラストや細密画による解剖学図譜ではなく、写真アトラスの範疇に属する。周知の通り、写真アトラスの優劣は写真自体の精度もさることながら、もともとなる剖出標本の質と種類に依存するため、標本作成技術とその保存管理がきわめて重要である。その点からみれば本書は単なるアトラスではなく、きわめて質の高い人体剖出標本の存在を世に知らしめるアーカイブといえることができる。将来にわたってかくも繊細に剖出された人体標本を一堂に提示する

ことは不可能であるといっても過言ではない。

1985年の初版以来、本書は1990年(第2版)、1994年(第3版)、1999年(第4版)、2004年(第5版)、そして今回の第6版と4～5年のペースで改訂されている。初版の序でも述べられているように、局所ごとの提示を原則とした構成は本書の一貫した方針であり、実習に用いる学生の利便性を考慮したものである。今回の第6版においても基本的な構成は踏襲されており、旧版からの利用者にとっても違和感はない。しかしながら、新版には読者に違和感を与えないように工夫された新しい試みが随所にみられる。

第6版で目につくのは30あまりの増頁であるが、これは単なる写真の増加ではない。通常なら「削除するのは勿体ない」とも思える標本の写真が、「人体解剖実習で真に必要な資料を提示する」方針のもとに、繊細な局所標本写

真や立体的な模式図に替えられている。著者らが初版でめざした「解剖学の勉強に資するアトラス」に対する思いがここでも貫かれているのである。さらに、今回の改訂では吟味された医療画像が効果的に採用されている。旧版でも医療画像は掲載されていたが、今回の改訂では質量ともに充実がはかれ、格段に理解しやすいアトラスとなっている。

初版が世に出た頃、医・歯学部で解剖学実習はご遺体不足に悩まされていた。現在は20年前に比べてご遺体の不足は緩和されているが、教員の不足は進行しており、解剖学教育で最も重要な人体解剖実習における悩みは尽きない。このため、人体解剖アトラスの最右翼として20年以上進化し続けてきた本書の位置づけも、実習の道案内役から人体解剖学の必須指導書へと変わりつつある。

最後に、本書の弱点を無理にあげるとするならば、書籍であることの限界つまり「触って実感できない」点にあらう。しかしながら、この弱点が指摘されなくなるのは人体解剖実習自体がその本質を失うときでしかない。

●A4/頁 568/2007年/定価 12,600円(本体12,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-00385-8]
医学書院 刊